

専徳寺報

第397号

平成24年6月8日発行

浄土真宗本願寺派

専徳寺

〒740-0044 岩国市通津2764
☎0827-38-1124 FAX38-1000

<http://sentokuji-iwakuni.net/>

専徳寺

検索

雨安居（仏婦法座）

御案内

新緑の季節、仏婦役員が主催する年に一度の法座を開きます。おおくのご参詣を役員一同お待ちしております。

会長 河本多喜子

日時

6月18日(月)

朝 10時～12時

お斎

昼 1時30分～3時30分

ご講師

龍谷大学名誉教授

海谷 則之 師（江田島市 光源寺）

●参拝セット：①念珠・②聖典・③式章・④聴聞カード

如来・人・言葉 90

小さないのち

中国新聞には、週一度の宗教ページに「明窓」という読者の投稿欄があります。平成元年七月のことですが、次のような記事が出ておりました。山口県岩国市玖珂町に住んでおられる宇野博江さんという二八歳の主婦の方からのものでした。

今年五月、出産を無事終え病室に帰ると、小さな小さなわが子が、新生児用のワゴンの中で眠っていた。まだ腕に点滴の針を刺したままの私は、主人にワゴンを枕元まで押してもらい、ベッドの上から初めてわが子と対面した。小さな目、口、鼻、そして手。何もかもがいとおしくて、話しかけると、しばらくして右目をあげ、一生懸命に私の顔

を見ていた。その目を私は一生忘れない。

それから二日後、わが子はお浄土へ帰っていった。今にして思えば、あの時わが子は、「お母さん、ごめんね。この世でこうして見つめあうのも、これが最初で最後です。でも私はお母さんに気づいてほしくて、わかってほしくてこの世に生まれて来たのです」と一心に私に訴えていたのだと思う。

愚かな母のために苦しみながら生まれ、死んでいったわが子。あれからいつも「南無阿弥陀仏」と手をあわせる。お慈悲の中で親子ともども、生かされていることを感謝する。いつの日か、この私もお浄土へ帰らせて頂く。その日まで、わが子「智子」の母親として恥ずかしくない人間として、力いっぱい生き抜かせて頂こうと、毎日、覚悟を新たに過ごさせて頂いている。

生まれて二日後には亡くなった子どもを、このお母さんは「善知識」として心から拜んでおられるのです。確かに、何のために生まれてきたのかわからないような赤ちゃんでした。しかし、わずか二日間の人生でしかなかった子ではあっても、出産までの一日一日はどんなに待ち遠しい日々だったことでしょうか。男の子だろうか、女の子だろうか。名前は何にしようか、元気にぞだつて欲しい、…。いろいろと出産の準備に追われながらも、楽しい一日一日だったに違いありません。つまり、この子は両親やまわりの人びとに大きな期待と喜びを与えてきたのです。

亡くなったという現実だけを見ると、悲しくて泣けてくるけれども、この小さないのちのおかげで、ふたたび会える世界を教えてもらったのです。「仏智にめざめる」とはこういうことなのでしょう。

平安中期の女流歌人・和泉式部はわが子・古式部内時に先立たれたとき、ただ悲嘆にくれておりました。そのうちわが子が

自分に尊い仏縁をつくってくれたことに気づき、それからというものの、いつそう仏法をよろこぶようになったのです。そこで、

うつつ世に 仇にはかなき 身を知れとおしへて帰る 子は知識なり

と詠っております。老少不定のはかない人生を教えてくれたわが子こそ「善知識」であったと心から感謝するようになり、仏さまとなって自分を導いてくれるわが子を偲んだのです。

蓮如上人は『御文章』に、

善知識といふは、阿弥陀仏に帰命せよといへるつかひ(使い)なり。

と書いておられます。先立たれた方が、「あなたも阿弥陀如来をたよりとして、真実の浄土にめざめ、そこへ帰ってください」と教え導いておられるのであります。

あるご婦人が、死産した子の三三回忌ということで、お寺に参られました。前日、自宅に参ってほしいとの電話を受けていたのですが、当日になって、自分の方がお寺へ参りたいということとで、参詣されたのです。

お経をあげ、ご法話しますとき、「あなたは良い子どもさんを持たれましたね」とまず申しあげました。というのは、死産の子とはいえ、三十数年たった今もお、親をお寺まで連れてき

てくれる子はそうざらにいないからであります。ましていわんや、死んで生まれた子ですから、何のために生まれてきたのかわからないような子なのですが、しかし、この母親にとつてみれば、けつして忘れることのできない善知識だったのであります。

しかも帰りに、外陣の柱にかけてある年回帳を調べていた彼女は、その中に実の父親の名前を見つけたのです。驚いたことに、ちょうどその日が父親の五十回忌の当日だったので。そのことにまったく気づかず参詣されていたのです。これも死んだ子のおかげですと、ふたたびお経のご縁に遇い、心から喜んで帰っていかれました。

(海谷則之『いのちの華を咲かせて』より)

寺内だより

み仏にいだかれて〔葬儀勤修〕

4月15日御往生

通津

沖 沙智雄様 (76)

喪主 河本 潤子様

4月24日御往生

通津

中本 千代様 (68)

喪主 中本 絹代様

5月18日御往生

藤生

松重 良一様 (84)

喪主 松重 吉英様

5月20日御往生

神東

稲本 浩様 (72)

喪主 稲本 順子様

5月21日御往生

通津

館澤 勇男様 (80)

喪主 館澤 安衣様

5月24日御往生

通津

松川 義孝様 (81)

喪主 松川千代子様

5月25日御往生

海土路

古江クマヨ様 (96)

喪主 古江 益嵩様

ご恩を偲びました〔法事勤修〕 (4月)

【通津】米村良典様13、銀文字様7、井原貞子様100・100、坪岡規三様100、大倉昇様3・50、松岡平治様7、【保津】山近祐二様50・50、大崎英夫様25、松宮透高様25、【青木】木村勲様100、大原久子様25、村岡健様25、【黒磯】森重好子様1、左伊木辰枝様50、【藤生】白木寿様25、【由宇】泉ハル子様50、【火打岩】山本正輝様13、【周東】津村昌宏様1、【市内】前川博様1、谷川幸夫様7・7、【広島】升元薫様1

おめでと〜ございます〔入仏式〕

◆4月28日 本呂尾 村重 健一様

お給仕の慶び一人に存じます。

法要余香〔宗祖降誕会5月14・15日〕

御講師・安方哲爾師、参詣者・初日115人、夜43人。二日目119人。御報謝・法要総代、仏婦理事。お鉢米11広田尚敏・中崎清人、お供物11河村アサ子・藤井則枝。有難うございました。祝賀会余興11フラダンス(仏婦有志)、日舞(多山孝子)、カラオケ(津秋武彦・村重悌夫・土井一生)、親鸞音頭(有志)、ビンゴ

前号の訂正とお詫び

「法事勤修」に、通津地区の中崎圭司様50 が抜けていました。